2026～2035年度の連系線の運用容量（年間・長期）

2026年3月2日

電力広域的運営推進機関

目次

1. 2026年度の年間運用容量

2. 2027年度の年間運用容量

3. 特殊日の運用容量

4. 2028～2035年度の長期運用容量

5. 全国系統の運用容量（2026年度8月平日昼間帯）

1.（1）2026年度の年間運用容量（平日：昼間帯）（1/2）

具体的な日毎の運用容量は系統情報サービス参照
単位：万kW

連系線	潮流方向	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
北海道本州間連系設備	北海道向	90(①)	90(①) 【30(①)】	90(①) 【60(①)】	90(①) 【30(①)】	90(①) 【60(①)】	【60(①)】	【60(①)】	【60(①)】	【60(①)】	【60(①)】	【60(①)】	【60(①)】
	東北向	70(③)	70(③) 【30(①)】	70(③) 【25(①)】	70(③) 【25(①)】	70(③) 【50(①)】	【50(①)】	【60(①)】	【60(①)】	【60(①)】	【60(①)】	【60(①)】	【60(①)】
東北東京間連系線	東北向	236(①)	236(①)	236(①)	236(①)	236(①)	236(①)	236(①) 【21(①)】	236(①)	236(①)	236(①)	236(①)	236(①) 【80(①)】
	東京向	【355(①)】	【355(①)】	【245(①)】	525(①) 【525(①)】	525(①)	525(①) 【425(①)】	525(①) 【445(①)】	555(①) 【500(①)】	555(①)	620(①)	536(②) 【531(②)】	【290(①)】
東京中部間連系設備	東京向	【90(①)】	【150(①)】	【120(③)】	【180(①)】	【180(①)】	【120(①)】	【84(①)】	【86(①)】	【120(①)】	【180(①)】	【180(①)】	【139(①)】
	中部向	【90(①)】	【150(①)】	【180(①)】	【180(①)】	【180(①)】	【150(①)】	【90(①)】	【90(①)】	【142(①)】	【180(①)】	【180(①)】	【142(①)】
中部フェンス	北陸・関西向	【213②】	【223②】	【223②】	【253②】	【273②】	前半【243②】 後半【193②】	【213②】	【213②】	240(②) 【160②】	240(②)	240(②)	前半【230②】 後半263(②) 【253②】
	中部向	【281①】	【295②】	【295②】	【301③】	【301③】	前半【271③】 後半【265②】	【295②】	【283③】	【239①】	400(③)	400(③)	前半【380③】 後半【343③】
北陸フェンス	北陸向	【252③】	【252③】	【252③】	【282③】	【282③】	前半【252③】 後半【252③】	【252③】	【252③】	272(②) 【182②】	272(②)	272(②)	前半272(②) 後半【272③】
	中部・関西向	【307②】	【295①】	【278①】	【347②】	【357②】	前半【278①】 後半【278①】	【295①】	【307②】	【239①】	407(②)	407(②)	前半【387②】 後半【387②】
関西フェンス	関西向	【213②】	【223②】	【223②】	【253②】	【273②】	前半【243②】 後半【193②】	【213②】	【213②】	240(②) 【160②】	240(②)	240(②)	前半【230②】 後半263(②) 【253②】
	中部・北陸向	【283③】	【295①】	【278①】	【301③】	【301③】	前半【271③】 後半【265②】	【295①】	【283③】	【260③】	400(③)	400(③)	前半【380③】 後半【343③】

（ ）内の数字は、運用容量決定要因（①熱容量等、②同期安定性、③電圧安定性、④周波数維持）を示す。　【 】内の数字は、作業時の最小運用容量を示す。
注1）9月、11月、3月における「前半」：15日まで、「後半」：16日以降

1.（1）2026年度の年間運用容量（平日：昼間帯）（2/2）

具体的な日毎の運用容量は系統情報サービス参照
単位：万kW

連系線	潮流方向	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
関西中国間連系線注1)	関西向	445(③) 【415(③)】	445(③) 【295(①)】	450(③) 【278(①)】	465(③)	465(③)	前半465(③) 後半470(③) 【329(①)】	450(③) 【329(①)】	450(③) 【326(①)】	475(③) 【326(①)】	475(③)	475(③)	前半475(③) 【326(①)】 後半470(③) 【329(①)】
	中国向	460(③) 【435(③)】	460(③) 【295(①)】	460(③) 【278(①)】	470(③)	470(③)	前半470(③) 後半460(③) 【329(①)】	460(③) 【329(①)】	460(③) 【326(①)】	465(③) 【326(①)】	465(③)	465(③)	前半465(③) 【326(①)】 後半460(③) 【329(①)】
関西四国間連系設備	関西向	69(①)	70(①)	39(①)	77(①)	61(①)	69(①)	38(①)	29(①)	37(①)	41(①)	14(①)	14(①)
	四国向	0(②)	0(②)	0(②)	0(②)	0(②)	0(②)	0(②)	0(②)	0(②)	0(②)	0(②)	0(②)
中国四国間連系線	中国向	120(①) 【120(①)】	120(①) 【120(①)】	120(①) 【120(①)】	145(①)	145(①)	145(①) 【145(①)】	120(①) 【120(①)】	120(①)	120(①)	120(①)	120(①) 【120(①)】	120(①) 【120(①)】
	四国向	120(①) 【120(①)】	120(①) 【120(①)】	120(①) 【120(①)】	120(①)	120(①)	前半120(①) 【120(①)】 後半120(①) 【120(①)】	120(①) 【120(①)】	前半120(①) 後半120(①)	120(①)	120(①)	120(①) 【120(①)】	前半120(①) 【120(①)】 後半120(①) 【120(①)】
中国九州間連系線注1)	中国向	202(④) 【160(④)】	203(④) 【153(④)】	213(④)	242(④)	234(④)	前247(④) 後223(④)	208(④)	前208(④) 後225(④)	239(④)	250(④)	245(④)	前231(④) 後210(④)
	九州向	28(④) 【6(④)】	22(④) 【4(④)】	28(④)	58(④)	54(④)	前49(④) 後39(④)	33(④)	前34(④) 後36(④)	41(④)	43(④)	38(④)	前33(④) 後31(④)

（ ）内の数字は、運用容量決定要因（①熱容量等、②同期安定性、③電圧安定性、④周波数維持）を示す。　【 】内の数字は、作業時の最小運用容量を示す。
注1）9月、11月、3月における「前半」：15日まで、「後半」：16日以降

1.（2）2026年度の年間運用容量（平日：夜間帯）（1/2）

具体的な日毎の運用容量は系統情報サービス参照
単位：万kW

連系線	潮流方向	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
北海道本州間連系設備	北海道向	90(①)	90(①) 【60(①)】	90(①) 【30(①)】	90(①) 【60(①)】	90(①) 【60(①)】	【60(①)】	【60(①)】	【60(①)】	【60(①)】	【60(①)】	【60(①)】	【60(①)】
	東北向	70(③)	70(③) 【40(③)】	70(③) 【25(①)】	70(③) 【25(①)】	70(③) 【50(①)】	【50(①)】	【60(①)】	【60(①)】	【60(①)】	【60(①)】	【60(①)】	【60(①)】
東北東京間連系線	東北向	236(①)	236(①)	236(①)	236(①)	236(①)	236(①)	236(①) 【129(①)】	236(①)	236(①)	236(①)	236(①)	236(①) 【179(①)】
	東京向	【345(①)】	【345(①)】	【275(①)】	555(①) 【520(①)】	555(①)	521(②) 【515(①)】	521(②) 【406(②)】	545(①) 【501(②)】	535(①)	540(①)	486(②) 【481(②)】	【325(①)】
東京中部間連系設備	東京向	【90(①)】	【150(①)】	【120(③)】	【180(①)】	【180(①)】	【120(①)】	【84(①)】	【86(①)】	【120(①)】	【180(①)】	【180(①)】	【150(①)】
	中部向	【90(①)】	【150(①)】	【180(①)】	【180(①)】	【180(①)】	【150(①)】	【90(①)】	【90(①)】	【142(①)】	【180(①)】	【180(①)】	【150(①)】
中部フェンス	北陸・関西向	229(②) 【179②】	【189②】	【189②】	【230②】	【250②】	前半【210②】 後半【179②】	【179②】	【179②】	229(②) 【159②】	229(②)	229(②)	前半【219②】 後半【209②】
	中部向	【281①】	【300②】	【300②】	【301③】	【301③】	前半【271③】 後半【270②】	【300②】	【303③】	【239①】	400(③)	400(③)	前半【380③】 後半【343③】
北陸フェンス	北陸向	261(①) 【252③】	【252③】	【251②】	240(①)	240(①)	前半240(①) 後半【252③】	【252③】	【251②】	【223③】	303(③)	303(③)	前半【283③】 後半261(①)
	中部・関西向	【317②】	【295①】	【278①】	【347②】	【357②】	前半【278①】 後半【278①】	【295①】	【317②】	【239①】	407(②)	407(②)	前半【387②】 後半【387②】
関西フェンス	関西向	229(②) 【179②】	【189②】	【189②】	【230②】	【250②】	前半【210②】 後半【179②】	【179②】	【179②】	229(②) 【159②】	229(②)	229(②)	前半【219②】 後半【209②】
	中部・北陸向	【303③】	【295①】	【278①】	【301③】	【301③】	前半【271③】 後半【270②】	【295①】	【303③】	【260③】	400(③)	400(③)	前半【380③】 後半【343③】

（ ）内の数字は、運用容量決定要因（①熱容量等、②同期安定性、③電圧安定性、④周波数維持）を示す。　【 】内の数字は、作業時の最小運用容量を示す。
注1）9月、11月、3月における「前半」：15日まで、「後半」：16日以降

1.（2）2026年度の年間運用容量（平日：夜間帯）（2/2）

具体的な日毎の運用容量は系統情報サービス参照
単位：万kW

連系線	潮流方向	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
関西中国間連系線注1)	関西向	445(③) 【415(③)】	445(③) 【295(①)】	450(③) 【278(①)】	465(③)	465(③)	前半465(③) 後半470(③) 【329(①)】	450(③) 【329(①)】	450(③) 【326(①)】	475(③) 【326(①)】	475(③)	475(③)	前半475(③) 【329(①)】 後半470(③) 【329(①)】
	中国向	460(③) 【435(③)】	460(③) 【295(①)】	460(③) 【278(①)】	470(③)	470(③)	前半470(③) 後半460(③) 【329(①)】	460(③) 【329(①)】	460(③) 【326(①)】	465(③) 【326(①)】	465(③)	465(③)	前半465(③) 【329(①)】 後半460(③) 【329(①)】
関西四国間連系設備	関西向	69(①)	70(①)	39(①)	77(①)	61(①)	69(①)	38(①)	29(①)	37(①)	41(①)	14(①)	14(①)
	四国向	0(②)	0(②)	0(②)	0(②)	0(②)	0(②)	0(②)	0(②)	0(②)	0(②)	0(②)	0(②)
中国四国間連系線	中国向	120(①) 【120(①)】	120(①) 【120(①)】	120(①) 【120(①)】	145(①)	145(①)	145(①) 【145(①)】	120(①) 【120(①)】	120(①)	120(①)	120(①)	120(①) 【120(①)】	120(①) 【120(①)】
	四国向	120(①) 【120(①)】	120(①) 【120(①)】	120(①) 【120(①)】	120(①)	120(①)	前半120(①) 【120(①)】 後半120(①) 【120(①)】	120(①) 【120(①)】	前半120(①) 後半120(①)	120(①)	120(①)	120(①) 【120(①)】	前半120(①) 【120(①)】 後半120(①) 【120(①)】
中国九州間連系線注1)	中国向	179(④) 【173(④)】	175(④) 【170(④)】	179(④)	200(④)	191(④)	前204(④) 後187(④)	178(④)	前179(④) 後191(④)	201(④)	223(④)	217(④)	前206(④) 後190(④)
	九州向	51(④) 【20(④)】	42(④) 【16(④)】	42(④)	74(④)	68(④)	前68(④) 後65(④)	61(④)	前63(④) 後66(④)	77(④)	92(④)	88(④)	前67(④) 後60(④)

（ ）内の数字は、運用容量決定要因（①熱容量等、②同期安定性、③電圧安定性、④周波数維持）を示す。　【 】内の数字は、作業時の最小運用容量を示す。
注1）9月、11月、3月における「前半」：15日まで、「後半」：16日以降

1.（3）2026年度の年間運用容量（休日：昼間帯）（1/2）

具体的な日毎の運用容量は系統情報サービス参照
単位：万kW

連系線	潮流方向	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
北海道本州間連系設備	北海道向	90(①)	90(①) 【60(①)】	90(①) 【30(①)】	【60(①)】	90(①) 【60(①)】	【60(①)】	【60(①)】	【60(①)】	【60(①)】	【60(①)】	【60(①)】	【60(①)】
	東北向	70(③)	70(③) 【40(③)】	70(③) 【30(①)】	【50(①)】	70(③) 【50(①)】	【60(①)】	【60(①)】	【60(①)】	【60(①)】	【60(①)】	【60(①)】	【60(①)】
東北東京間連系線	東北向	236(①)	236(①)	236(①)	236(①)	236(①)	236(①)	236(①) 【21(①)】	236(①)	236(①)	236(①)	236(①)	236(①) 【80(①)】
	東京向	【355(①)】	【355(①)】	【245(①)】	525(①) 【525(①)】	525(①)	525(①)	【455(①)】	555(①) 【500(①)】	555(①)	620(①)	620(①) 【531(②)】	【470(①)】
東京中部間連系設備	東京向	【120(③)】	【120(③)】	【120(③)】	【180(①)】	【180(①)】	【150(①)】	【131(①)】	【86(①)】	【120(①)】	【180(①)】	【180(①)】	【150(①)】
	中部向	【135(①)】	【180(①)】	【180(①)】	【180(①)】	【180(①)】	【150(①)】	【135(①)】	【90(①)】	【142(①)】	【180(①)】	【180(①)】	【150(①)】
中部フェンス	北陸・関西向	【167②】	【177②】	【177②】	【242②】	【252②】	前半【222②】 後半【157②】	【177②】	【167②】	273(②) 【173②】	273(②)	273(②)	前半【263②】 後半227(②) 【217②】
	中部向	【233②】	【253②】	【253②】	【301③】	【301③】	前半【271③】 後半【223②】	【253②】	【233②】	【236①】	376(②)	376(②)	前半【356②】 後半【303②】
北陸フェンス	北陸向	231(①)	231(①)	231(①)	281(①) 【222③】	281(①)	前半281(①) 【252③】 後半231(①)	231(①)	231(①)	261(①) 【221②】	261(①)	261(①)	前半261(①) 後半231(①)
	中部・関西向	【307②】	【295①】	【278①】	【337②】	【357②】	前半【278①】 後半【278①】	【295①】	【307②】	【239①】	407(②)	407(②)	前半【387②】 後半【387②】
関西フェンス	関西向	【167②】	【177②】	【177②】	【242②】	【252②】	前半【222②】 後半【157②】	【177②】	【167②】	273(②) 【173②】	273(②)	273(②)	前半【263②】 後半227(②) 【217②】
	中部・北陸向	【233②】	【253②】	【253②】	【301③】	【301③】	前半【271③】 後半【223②】	【253②】	【233②】	【256②】	376(②)	376(②)	前半【356②】 後半【303②】

（ ）内の数字は、運用容量決定要因（①熱容量等、②同期安定性、③電圧安定性、④周波数維持）を示す。　【 】内の数字は、作業時の最小運用容量を示す。
注1）9月、11月、3月における「前半」：15日まで、「後半」：16日以降

1.（3）2026年度の年間運用容量（休日：昼間帯）（2/2）

具体的な日毎の運用容量は系統情報サービス参照
単位：万kW

連系線	潮流方向	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
関西中国間連系線注1)	関西向	445(③)	445(③) 【295(①)】	450(③) 【278(①)】	465(③)	465(③)	前半465(③) 後半470(③)	450(③) 【329(①)】	450(③) 【329(①)】	475(③) 【326(①)】	475(③)	475(③)	前半475(③) 【329(①)】 後半470(③) 【329(①)】
	中国向	460(③)	460(③) 【295(①)】	460(③) 【278(①)】	470(③)	470(③)	前半470(③) 後半460(③)	460(③) 【329(①)】	460(③) 【329(①)】	465(③) 【326(①)】	465(③)	465(③)	前半465(③) 【329(①)】 後半460(③) 【329(①)】
関西四国間連系設備	関西向	69(①)	70(①)	39(①)	77(①)	61(①)	69(①)	38(①)	29(①)	37(①)	41(①)	14(①)	14(①)
	四国向	0(②)	0(②)	0(②)	0(②)	0(②)	0(②)	0(②)	0(②)	0(②)	0(②)	0(②)	0(②)
中国四国間連系線	中国向	120(①) 【120(①)】	120(①) 【120(①)】	120(①) 【120(①)】	145(①)	145(①)	145(①) 【145(①)】	120(①) 【120(①)】	120(①)	120(①)	120(①)	120(①) 【120(①)】	120(①) 【120(①)】
	四国向	120(①) 【120(①)】	120(①) 【120(①)】	120(①) 【120(①)】	120(①)	120(①)	前半120(①) 【120(①)】 後半120(①) 【120(①)】	120(①) 【120(①)】	前半120(①) 後半120(①)	120(①)	120(①)	120(①) 【120(①)】	前半120(①) 【120(①)】 後半120(①) 【120(①)】
中国九州間連系線注1)	中国向	168(④) 【126(④)】	168(④) 【125(④)】	175(④)	202(④)	212(④)	前214(④) 後184(④)	174(④)	前175(④) 後186(④)	195(④)	204(④)	196(④)	前193(④) 後176(④)
	九州向	16(④) 【0(④)】	17(④) 【0(④)】	18(④)	39(④)	41(④)	前35(④) 後25(④)	17(④)	前21(④) 後22(④)	28(④)	26(④)	26(④)	前25(④) 後23(④)

（ ）内の数字は、運用容量決定要因（①熱容量等、②同期安定性、③電圧安定性、④周波数維持）を示す。　【 】内の数字は、作業時の最小運用容量を示す。
注1）9月、11月、3月における「前半」：15日まで、「後半」：16日以降

1.（4）2026年度の年間運用容量（休日：夜間帯）（1/2）

具体的な日毎の運用容量は系統情報サービス参照
単位：万kW

連系線	潮流方向	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
北海道本州間連系設備	北海道向	90(①)	90(①) 【60(①)】	90(①) 【60(①)】	【60(①)】	90(①) 【60(①)】	【60(①)】	【60(①)】	【60(①)】	【60(①)】	【60(①)】	【60(①)】	【60(①)】
	東北向	70(③)	70(③) 【40(③)】	70(③) 【40(③)】	【50(①)】	70(③) 【50(①)】	【60(①)】	【60(①)】	【60(①)】	【60(①)】	【60(①)】	【60(①)】	【60(①)】
東北東京間連系線	東北向	236(①)	236(①)	236(①)	236(①)	236(①)	236(①)	236(①) 【160(①)】	236(①)	236(①)	236(①)	236(①)	236(①) 【179(①)】
	東京向	【345(①)】	【345(①)】	【275(①)】	555(①) 【520(①)】	555(①)	521(②)	【406(②)】	545(①) 【501(②)】	535(①)	540(①)	540(①) 【481(②)】	【446(②)】
東京中部間連系設備	東京向	【120(③)】	【120(③)】	【120(③)】	【180(①)】	【180(①)】	【150(①)】	【131(①)】	【86(①)】	【120(①)】	【180(①)】	【180(①)】	【150(①)】
	中部向	【135(①)】	【180(①)】	【180(①)】	【180(①)】	【180(①)】	【150(①)】	【135(①)】	【90(①)】	【142(①)】	【180(①)】	【180(①)】	【150(①)】
中部フェンス	北陸・関西向	【199②】	【199②】	【199②】	【248②】	【258②】	前半【198②】 後半【199②】	【199②】	【199②】	【121②】	211(②)	211(②)	前半【191②】 後半【209②】
	中部向	【260②】	【260②】	【270②】	【301③】	【301③】	前半【262②】 後半【240②】	【260②】	【260②】	【239①】	397(②)	397(②)	前半【377②】 後半330(②) 【320②】
北陸フェンス	北陸向	190(①) 【180②】	190(①)	190(①)	233(①)	233(①)	前半233(①) 後半190(①) 【180②】	190(①)	190(①) 【180②】	269(①) 【189②】	269(①)	269(①)	前半269(①) 後半190(①)
	中部・関西向	【317②】	【295①】	【278①】	【347②】	【357②】	前半【278①】 後半【278①】	【295①】	【317②】	【239①】	407(②)	407(②)	前半【387②】 後半【387②】
関西フェンス	関西向	【199②】	【199②】	【199②】	【248②】	【258②】	前半【198②】 後半【199②】	【199②】	【199②】	【121②】	211(②)	211(②)	前半【191②】 後半【209②】
	中部・北陸向	【260②】	【260②】	【270②】	【301③】	【301③】	前半【262②】 後半【240②】	【260②】	【260②】	【260③】	397(②)	397(②)	前半【377②】 後半330(②) 【320②】

（ ）内の数字は、運用容量決定要因（①熱容量等、②同期安定性、③電圧安定性、④周波数維持）を示す。　【 】内の数字は、作業時の最小運用容量を示す。
注1）9月、11月、3月における「前半」：15日まで、「後半」：16日以降

1.（4）2026年度の年間運用容量（休日：夜間帯）（2/2）

具体的な日毎の運用容量は系統情報サービス参照

単位：万kW

連系線	潮流方向	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
関西中国間連系線注1)	関西向	445(③)	445(③) 【295(①)】	450(③) 【278(①)】	465(③)	465(③)	前半465(③) 後半470(③)	450(③) 【329(①)】	450(③) 【329(①)】	475(③) 【326(①)】	475(③)	475(③)	前半475(③) 【329(①)】 後半470(③) 【329(①)】
	中国向	460(③)	460(③) 【295(①)】	460(③) 【278(①)】	470(③)	470(③)	前半470(③) 後半460(③)	460(③) 【329(①)】	460(③) 【329(①)】	465(③) 【326(①)】	465(③)	465(③)	前半465(③) 【329(①)】 後半460(③) 【329(①)】
関西四国間連系設備	関西向	69(①)	70(①)	39(①)	77(①)	61(①)	69(①)	38(①)	29(①)	37(①)	41(①)	14(①)	14(①)
	四国向	0(②)	0(②)	0(②)	0(②)	0(②)	0(②)	0(②)	0(②)	0(②)	0(②)	0(②)	0(②)
中国四国間連系線	中国向	120(①) 【120(①)】	120(①) 【120(①)】	120(①) 【120(①)】	145(①)	145(①)	145(①) 【145(①)】	120(①) 【120(①)】	120(①)	120(①)	120(①)	120(①) 【120(①)】	120(①) 【120(①)】
	四国向	120(①) 【120(①)】	120(①) 【120(①)】	120(①) 【120(①)】	120(①)	120(①)	前半120(①) 【120(①)】 後半120(①) 【120(①)】	120(①) 【120(①)】	前半120(①) 後半120(①)	120(①)	120(①)	120(①) 【120(①)】	前半120(①) 【120(①)】 後半120(①) 【120(①)】
中国九州間連系線注1)	中国向	157(④) 【146(④)】	153(④) 【141(④)】	158(④)	176(④)	178(④)	前179(④) 後164(④)	156(④)	前159(④) 後169(④)	184(④)	196(④)	193(④)	前188(④) 後170(④)
	九州向	39(④) 【16(④)】	30(④) 【12(④)】	33(④)	58(④)	55(④)	前53(④) 後49(④)	48(④)	前50(④) 後54(④)	71(④)	81(④)	74(④)	前54(④) 後50(④)

（ ）内の数字は、運用容量決定要因（①熱容量等、②同期安定性、③電圧安定性、④周波数維持）を示す。　【 】内の数字は、作業時の最小運用容量を示す。

注1）9月、11月、3月における「前半」：15日まで、「後半」：16日以降

2.（1）2027年度の年間運用容量（平日：昼間帯）（1/2）

具体的な日毎の運用容量は系統情報サービス参照
単位：万kW

連系線	潮流方向	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
北海道本州間連系設備	北海道向	【60(①)】	【60(①)】	【60(①)】	【30(①)】	【30(①)】	【60(①)】	【60(①)】	【30(①)】	90(①) 【60(①)】	90(①)	90(①)	90(①) 【60(①)】
	東北向	【60(①)】	【60(①)】	【60(①)】	【25(①)】	【25(①)】	【40(③)】	【60(①)】	【30(①)】	70(③) 【60(①)】	70(③)	70(③)	70(③) 【60(①)】
東北東京間連系線	東北向	236(①)	236(①)	236(①)	236(①)	236(①)	236(①)	236(①)	236(①)	658(①) 【545(①)】	658(①)	658(①)	658(①)
	東京向	【525(①)】	【480(①)】	【480(①)】	525(①) 【525(①)】	525(①)	525(①)	481(②) 【426(②)】	555(①) 【546(②)】	735(①) 【595(①)】	700(①)	730(①) 【625(①)】	530(①) 【545(①)】
東京中部間連系設備	東京向	【120(③)】	【120(③)】	【150(①)】	【172(①)】	【180(①)】	【146(①)】	【101(①)】	【120(①)】	【120(①)】	【150(①)】	【150(①)】	【135(①)】
	中部向	【150(①)】	【142(①)】	【150(①)】	【180(①)】	【180(①)】	【150(①)】	【105(①)】	【120(①)】	【120(①)】	【150(①)】	【150(①)】	【135(①)】
中部フェンス	北陸・関西向	【213②】	【196④】	【173②】	【253②】	【253②】	前半【243②】 後半【255④】	【231④】	【216④】	【160②】	240(②)	240(②)	前半240(②) 【230②】 後半263(②) 【253②】
	中部向	【303③】	【303③】	【239①】	【301③】	【301③】	前半【301③】 後半【458④】	【421④】	【430④】	【239①】	400(③)	400(③)	前半【380③】 後半【343③】
北陸フェンス	北陸向	【252③】	【130④】	【232②】	【282③】	【282③】	前半【150④】 後半【150④】	【150④】	【130④】	272(②) 【160④】	272(②)	272(②)	前半272(②) 後半【272②】
	中部・関西向	【317②】	【143④】	【239①】	【347②】	【347②】	前半【210②】 後半【208④】	【171④】	【180④】	【204④】	407(②)	407(②)	前半【387②】 後半【387②】
関西フェンス	関西向	【213②】	【66④】	【173②】	【253②】	【253②】	前半【118④】 後半【105④】	【81④】	【86④】	240(②) 【101④】	240(②)	240(②)	前半240(②) 【230②】 後半263(②) 【253②】
	中部・北陸向	【303③】	【250④】	【253③】	【301③】	【301③】	前半【250④】 後半【250④】	【250④】	【250④】	【250④】	400(③)	400(③)	前半【380③】 後半【343③】

（ ）内の数字は、運用容量決定要因（①熱容量等、②同期安定性、③電圧安定性、④周波数維持）を示す。　【 】内の数字は、作業時の最小運用容量を示す。
注1）9月、11月、3月における「前半」：15日まで、「後半」：16日以降

2.（1）2027年度の年間運用容量（平日：昼間帯）（2/2）

具体的な日毎の運用容量は系統情報サービス参照

単位：万kW

連系線	潮流方向	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
関西中国間連系線注1)	関西向	440(③) 【329(①)】	450(③) 【295(①)】	470(③) 【278(①)】	485(③)	485(③)	前半465(③) 【329(①)】 後半450(③) 【329(①)】	450(③) 【329(①)】	450(③) 【329(①)】	440(③) 【326(①)】	460(③)	460(③)	前半460(③) 【326(①)】 後半440(③) 【326(①)】
	中国向	460(③) 【329(①)】	460(③) 【295(①)】	460(③) 【278(①)】	470(③)	470(③)	前半470(③) 【329(①)】 後半460(③) 【329(①)】	460(③) 【329(①)】	460(③) 【329(①)】	465(③) 【326(①)】	465(③)	465(③)	前半465(③) 【326(①)】 後半460(③) 【326(①)】
関西四国間連系設備	関西向	14(①)	14(①)	18(①)	82(①)	90(①)	87(①)	63(①)	78(①)	38(①)	21(①)	74(①)	69(①) 【14(①)】
	四国向	0(②)	0(②)	0(②)	0(②)	0(②)	0(②)	0(②)	0(②)	0(②)	0(②)	0(②)	0(②) 【0(②)】
中国四国間連系線	中国向	120(①) 【120(①)】	120(①) 【120(①)】	120(①) 【120(①)】	145(①)	145(①)	145(①)	120(①) 【120(①)】	120(①) 【120(①)】	120(①)	120(①)	120(①) 【120(①)】	120(①) 【120(①)】
	四国向	120(①) 【120(①)】	120(①) 【120(①)】	120(①) 【120(①)】	120(①)	120(①)	前半120(①) 後半120(①)	120(①) 【120(①)】	前半120(①) 後半120(①) 【120(①)】	120(①)	120(①)	120(①) 【120(①)】	前半120(①) 【120(①)】 後半120(①) 【120(①)】
中国九州間連系線注1)	中国向	202(④) 【160(④)】	203(④) 【153(④)】	213(④)	242(④)	234(④)	前247(④) 後223(④)	208(④)	前208(④) 後225(④)	239(④)	250(④)	245(④)	前231(④) 【172(④)】 後210(④) 【162(④)】
	九州向	29(④) 【6(④)】	22(④) 【4(④)】	29(④)	58(④)	55(④)	前49(④) 後39(④)	33(④)	前35(④) 後36(④)	41(④)	43(④)	38(④)	前33(④) 【8(④)】 後31(④) 【7(④)】

（ ）内の数字は、運用容量決定要因（①熱容量等、②同期安定性、③電圧安定性、④周波数維持）を示す。　【 】内の数字は、作業時の最小運用容量を示す。

注1）9月、11月、3月における「前半」：15日まで、「後半」：16日以降

2.（2）2027年度の年間運用容量（平日：夜間帯）（1/2）

具体的な日毎の運用容量は系統情報サービス参照

単位：万kW

連系線	潮流方向	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
北海道本州間連系設備	北海道向	【60(①)】	【60(①)】	90(①) 【60(①)】	90(①)	90(①) 【60(①)】	【60(①)】	90(①) 【60(①)】	90(①)	90(①)	90(①)	90(①)	90(①)
	東北向	【60(①)】	【60(①)】	【40(③)】	70(③) 【40(③)】	【40(③)】	【40(③)】	70(③) 【60(①)】	70(③)	70(③)	70(③)	70(③)	70(③)
東北東京間連系線	東北向	236(①)	236(①)	236(①)	236(①)	236(①)	236(①)	236(①)	236(①)	658(①) 【560(①)】	658(①)	658(①)	658(①)
	東京向	【466(②)】	【466(②)】	【411(②)】	555(①) 【501(②)】	531(②)	501(②)	406(②) 【351(②)】	511(②) 【471(②)】	725(①) 【570(①)】	720(①)	750(①) 【645(①)】	525(①) 【540(①)】
東京中部間連系設備	東京向	【120(③)】	【120(③)】	【150(①)】	【172(①)】	【180(①)】	【176(①)】	【86(①)】	【150(①)】	【150(①)】	【180(①)】	【180(①)】	【135(①)】
	中部向	【180(①)】	【142(①)】	【150(①)】	【180(①)】	【180(①)】	【180(①)】	【90(①)】	【150(①)】	【150(①)】	【180(①)】	【180(①)】	【135(①)】
中部フェンス	北陸・関西向	【179②】	【161④】	【179②】	【230②】	【250②】	前半【202④】 後半【196④】	【179④】	【182④】	229(②) 【216④】	229(②)	229(②)	前半229(②) 【219②】 後半【209②】
	中部向	【303③】	【303③】	【303③】	【301③】	【301③】	前半【301③】 後半【410②】	【410②】	【410②】	【380③】	400(③)	400(③)	前半【380③】 後半【343③】
北陸フェンス	北陸向	【252③】	【70④】	261(①) 【252③】	240(①)	240(①)	前半240(①) 【80④】 後半【80④】	【70④】	【70④】	【90④】	303(③)	303(③)	前半【283③】 後半261(①)
	中部・関西向	【317②】	【186④】	【278①】	【347②】	【357②】	前半【210②】 後半【210②】	【210②】	【210②】	【210②】	407(②)	407(②)	前半【387②】 後半【387②】
関西フェンス	関西向	【179②】	【91④】	【179②】	【230②】	【250②】	前半【122④】 後半【116④】	【109④】	【112④】	229(②) 【126④】	229(②)	229(②)	前半229(②) 【219②】 後半【209②】
	中部・北陸向	【303③】	【200④】	【278①】	【301③】	【301③】	前半【200④】 後半【200④】	【200④】	【200④】	【220②】	400(③)	400(③)	前半【380③】 後半【343③】

（ ）内の数字は、運用容量決定要因（①熱容量等、②同期安定性、③電圧安定性、④周波数維持）を示す。　【 】内の数字は、作業時の最小運用容量を示す。

注1）9月、11月、3月における「前半」：15日まで、「後半」：16日以降

2.（2）2027年度の年間運用容量（平日：夜間帯）（2/2）

具体的な日毎の運用容量は系統情報サービス参照

単位：万kW

連系線	潮流方向	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
関西中国間連系線注1)	関西向	440(③) 【329(①)】	450(③) 【295(①)】	470(③) 【278(①)】	485(③)	485(③)	前半465(③) 【329(①)】 後半450(③) 【329(①)】	450(③) 【329(①)】	450(③) 【329(①)】	440(③) 【326(①)】	460(③)	460(③)	前半460(③) 【326(①)】 後半440(③) 【326(①)】
	中国向	460(③) 【329(①)】	460(③) 【295(①)】	460(③) 【278(①)】	470(③)	470(③)	前半470(③) 【329(①)】 後半460(③) 【329(①)】	460(③) 【329(①)】	460(③) 【329(①)】	465(③) 【326(①)】	465(③)	465(③)	前半465(③) 【326(①)】 後半460(③) 【326(①)】
関西四国間連系設備	関西向	14(①)	14(①)	18(①)	82(①)	90(①)	87(①)	63(①)	78(①)	38(①)	21(①)	74(①)	69(①) 【14(①)】
	四国向	0(②)	0(②)	0(②)	0(②)	0(②)	0(②)	0(②)	0(②)	0(②)	0(②)	0(②)	0(②) 【0(②)】
中国四国間連系線	中国向	120(①) 【120(①)】	120(①) 【120(①)】	120(①) 【120(①)】	145(①)	145(①)	145(①)	120(①) 【120(①)】	120(①) 【120(①)】	120(①)	120(①)	120(①) 【120(①)】	120(①) 【120(①)】
	四国向	120(①) 【120(①)】	120(①) 【120(①)】	120(①) 【120(①)】	120(①)	120(①)	前半120(①) 後半120(①)	120(①) 【120(①)】	前半120(①) 後半120(①) 【120(①)】	120(①)	120(①)	120(①) 【120(①)】	前半120(①) 【120(①)】 後半120(①) 【120(①)】
中国九州間連系線注1)	中国向	179(④) 【173(④)】	175(④) 【170(④)】	179(④)	200(④)	191(④)	前204(④) 後187(④)	178(④)	前179(④) 後191(④)	201(④)	223(④)	217(④)	前206(④) 【199(④)】 後190(④) 【187(④)】
	九州向	51(④) 【20(④)】	42(④) 【16(④)】	42(④)	75(④)	68(④)	前68(④) 後65(④)	61(④)	前63(④) 後67(④)	77(④)	92(④)	88(④)	前67(④) 【32(④)】 後61(④) 【28(④)】

（ ）内の数字は、運用容量決定要因（①熱容量等、②同期安定性、③電圧安定性、④周波数維持）を示す。　【 】内の数字は、作業時の最小運用容量を示す。

注1）9月、11月、3月における「前半」：15日まで、「後半」：16日以降

2.（3）2027年度の年間運用容量（休日：昼間帯）（1/2）

具体的な日毎の運用容量は系統情報サービス参照

単位：万kW

連系線	潮流方向	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
北海道本州間連系設備	北海道向	【60(①)】	【60(①)】	90(①) 【60(①)】	90(①) 【60(①)】	90(①) 【60(①)】	90(①) 【30(①)】	90(①) 【30(①)】	【60(①)】	90(①) 【60(①)】	90(①)	90(①)	90(①)
	東北向	【60(①)】	【60(①)】	【40(③)】	70(③) 【25(①)】	【40(③)】	【30(①)】	70(③) 【30(①)】	【30(①)】	70(③) 【60(①)】	70(③)	70(③)	70(③)
東北東京間連系線	東北向	236(①)	236(①)	236(①)	236(①)	236(①)	236(①)	236(①)	236(①)	658(①) 【545(①)】	658(①)	658(①)	658(①)
	東京向	【525(①)】	【480(①)】	【480(①)】	525(①) 【525(①)】	525(①)	525(①)	481(②)	555(①) 【575(①)】	735(①) 【595(①)】	700(①)	730(①)	560(①)
東京中部間連系設備	東京向	【120(③)】	【120(③)】	【82(①)】	【172(①)】	【180(①)】	【176(①)】	【86(①)】	【150(①)】	【150(①)】	【180(①)】	【180(①)】	【135(①)】
	中部向	【180(①)】	【142(①)】	【90(①)】	【180(①)】	【180(①)】	【180(①)】	【90(①)】	【150(①)】	【150(①)】	【180(①)】	【180(①)】	【135(①)】
中部フェンス	北陸・関西向	【177②】	【118④】	【177②】	【242②】	【242②】	前半【175④】 後半【150④】	【125④】	【133④】	273(②) 【166④】	273(②)	273(②)	前半273(②) 【263②】 後半227(②) 【217②】
	中部向	【253②】	【253②】	【253②】	【301③】	【301③】	前半【301③】 後半【348④】	【328④】	【341④】	【239①】	376(②)	376(②)	前半【281①】 後半【303②】
北陸フェンス	北陸向	231(①)	231(①) 【70④】	231(①)	281(①)	281(①)	前半281(①) 【80④】 後半【80④】	【70④】	【70④】	261(①) 【90④】	261(①)	261(①)	前半261(①) 後半231(①)
	中部・関西向	【317②】	【116④】	【278①】	【347②】	【347②】	前半【188④】 後半【148④】	【128④】	【141④】	【156④】	407(②)	407(②)	前半【387②】 後半【329①】
関西フェンス	関西向	【177②】	【48④】	【177②】	【242②】	【242②】	前半【95④】 後半【70④】	【55④】	【63④】	273(②) 【76④】	273(②)	273(②)	前半273(②) 【263②】 後半227(②) 【217②】
	中部・北陸向	【253②】	【200④】	【253②】	【301③】	【301③】	前半【200④】 後半【200④】	【200④】	【200④】	【200④】	376(②)	376(②)	前半【326①】 後半【303②】

（ ）内の数字は、運用容量決定要因（①熱容量等、②同期安定性、③電圧安定性、④周波数維持）を示す。　【 】内の数字は、作業時の最小運用容量を示す。

注1）9月、11月、3月における「前半」：15日まで、「後半」：16日以降

2.（3）2027年度の年間運用容量（休日：昼間帯）（2/2）

具体的な日毎の運用容量は系統情報サービス参照

単位：万kW

連系線	潮流方向	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
関西中国間連系線注1)	関西向	440(③) 【329(①)】	450(③) 【295(①)】	470(③) 【278(①)】	485(③)	485(③)	前半465(③) 【329(①)】 後半450(③) 【329(①)】	450(③) 【329(①)】	450(③) 【329(①)】	440(③) 【326(①)】	460(③)	460(③)	前半460(③) 【326(①)】 後半440(③) 【329(①)】
	中国向	460(③) 【329(①)】	460(③) 【295(①)】	460(③) 【278(①)】	470(③)	470(③)	前半470(③) 【329(①)】 後半460(③) 【329(①)】	460(③) 【329(①)】	460(③) 【329(①)】	465(③) 【326(①)】	465(③)	465(③)	前半465(③) 【326(①)】 後半460(③) 【329(①)】
関西四国間連系設備	関西向	14(①)	14(①)	18(①)	82(①)	90(①)	87(①)	63(①)	78(①)	38(①)	21(①)	74(①)	75(①) 【14(①)】
	四国向	0(②)	0(②)	0(②)	0(②)	0(②)	0(②)	0(②)	0(②)	0(②)	0(②)	0(②)	0(②) 【0(②)】
中国四国間連系線	中国向	120(①) 【120(①)】	120(①) 【120(①)】	120(①) 【120(①)】	145(①)	145(①)	145(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①) 【120(①)】	120(①) 【120(①)】
	四国向	120(①) 【120(①)】	120(①) 【120(①)】	120(①) 【120(①)】	120(①)	120(①)	前半120(①) 後半120(①)	120(①)	前半120(①) 後半120(①)	120(①)	120(①)	120(①) 【120(①)】	前半120(①) 【120(①)】 後半120(①) 【111(④)】
中国九州間連系線注1)	中国向	168(④) 【126(④)】	168(④) 【125(④)】	175(④)	202(④)	212(④)	前214(④) 後184(④)	174(④)	前175(④) 後186(④)	195(④)	204(④)	196(④)	前193(④) 【146(④)】 後176(④) 【132(④)】
	九州向	16(④) 【0(④)】	17(④) 【0(④)】	18(④)	40(④)	41(④)	前36(④) 後25(④)	17(④)	前21(④) 後22(④)	28(④)	26(④)	26(④)	前26(④) 【2(④)】 後23(④) 【0(④)】

（ ）内の数字は、運用容量決定要因（①熱容量等、②同期安定性、③電圧安定性、④周波数維持）を示す。　【 】内の数字は、作業時の最小運用容量を示す。

注1）9月、11月、3月における「前半」：15日まで、「後半」：16日以降

2.（4）2027年度の年間運用容量（休日：夜間帯）（1/2）

具体的な日毎の運用容量は系統情報サービス参照

単位：万kW

連系線	潮流方向	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
北海道本州間連系設備	北海道向	【60(①)】	【60(①)】	90(①) 【60(①)】	90(①)	90(①) 【60(①)】	90(①) 【30(①)】	90(①) 【60(①)】	90(①)	90(①)	90(①)	90(①)	90(①)
	東北向	【60(①)】	【60(①)】	【40(③)】	70(③) 【40(③)】	【40(③)】	【30(①)】	70(③) 【60(①)】	70(③)	70(③)	70(③)	70(③)	70(③)
東北東京間連系線	東北向	236(①)	236(①)	236(①)	236(①)	236(①)	236(①)	236(①)	236(①)	658(①) 【560(①)】	658(①)	658(①)	658(①)
	東京向	【471(②)】	【471(②)】	【411(②)】	555(①) 【501(②)】	531(②)	511(②)	406(②)	511(②) 【615(①)】	725(①) 【570(①)】	720(①)	750(①)	555(①)
東京中部間連系設備	東京向	【120(③)】	【120(③)】	【82(①)】	【172(①)】	【180(①)】	【176(①)】	【131(①)】	【150(①)】	【150(①)】	【180(①)】	【180(①)】	【135(①)】
	中部向	【180(①)】	【142(①)】	【90(①)】	【180(①)】	【180(①)】	【180(①)】	【135(①)】	【150(①)】	【150(①)】	【180(①)】	【180(①)】	【135(①)】
中部フェンス	北陸・関西向	【199②】	【142④】	【199②】	【248②】	【258②】	前半【185④】 後半【173④】	【161④】	【171④】	【191②】	211(②)	211(②)	前半【191②】 後半【209②】
	中部向	【260②】	【260②】	【260②】	【301③】	【301③】	前半【301③】 後半【383④】	【380④】	【394④】	【377②】	397(②)	397(②)	前半【377②】 後半330(②) 【320②】
北陸フェンス	北陸向	190(①)	190(①) 【70④】	190(①)	233(①)	233(①)	前半233(①) 【80④】 後半【80④】	【70④】	【70④】	269(①) 【90④】	269(①)	269(①)	前半269(①) 後半190(①)
	中部・関西向	【317②】	【154④】	【278①】	【347②】	【357②】	前半【200④】 後半【183④】	【180④】	【194④】	【210②】	407(②)	407(②)	前半【387②】 後半【387②】
関西フェンス	関西向	【199②】	【72④】	【199②】	【248②】	【258②】	前半【105④】 後半【93④】	【91④】	【101④】	【118④】	211(②)	211(②)	前半【191②】 後半【209②】
	中部・北陸向	【260②】	【200④】	【260②】	【301③】	【301③】	前半【200④】 後半【200④】	【200④】	【200④】	【200④】	397(②)	397(②)	前半【377②】 後半330(②) 【320②】

（ ）内の数字は、運用容量決定要因（①熱容量等、②同期安定性、③電圧安定性、④周波数維持）を示す。　【 】内の数字は、作業時の最小運用容量を示す。

注1）9月、11月、3月における「前半」：15日まで、「後半」：16日以降

2.（4）2027年度の年間運用容量（休日：夜間帯）（2/2）

具体的な日毎の運用容量は系統情報サービス参照

単位：万kW

連系線	潮流方向	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
関西中国間連系線注1)	関西向	440(③) 【329(①)】	450(③) 【295(①)】	470(③) 【278(①)】	485(③)	485(③)	前半465(③) 【329(①)】 後半450(③) 【329(①)】	450(③) 【329(①)】	450(③) 【329(①)】	440(③) 【326(①)】	460(③)	460(③)	前半460(③) 【326(①)】 後半440(③) 【329(①)】
	中国向	460(③) 【329(①)】	460(③) 【295(①)】	460(③) 【278(①)】	470(③)	470(③)	前半470(③) 【329(①)】 後半460(③) 【329(①)】	460(③) 【329(①)】	460(③) 【329(①)】	465(③) 【326(①)】	465(③)	465(③)	前半465(③) 【326(①)】 後半460(③) 【329(①)】
関西四国間連系設備	関西向	14(①)	14(①)	18(①)	82(①)	90(①)	87(①)	63(①)	78(①)	38(①)	21(①)	74(①)	75(①) 【14(①)】
	四国向	0(②)	0(②)	0(②)	0(②)	0(②)	0(②)	0(②)	0(②)	0(②)	0(②)	0(②)	0(②) 【0(②)】
中国四国間連系線	中国向	120(①) 【120(①)】	120(①) 【120(①)】	120(①) 【120(①)】	145(①)	145(①)	145(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①) 【120(①)】	120(①) 【120(①)】
	四国向	120(①) 【120(①)】	120(①) 【120(①)】	120(①) 【120(①)】	120(①)	120(①)	前半120(①) 後半120(①)	120(①)	前半120(①) 後半120(①)	120(①)	120(①)	120(①) 【120(①)】	前半120(①) 【120(①)】 後半120(①) 【120(①)】
中国九州間連系線注1)	中国向	157(④) 【146(④)】	153(④) 【141(④)】	158(④)	176(④)	178(④)	前179(④) 後164(④)	156(④)	前159(④) 後169(④)	184(④)	196(④)	193(④)	前188(④) 【182(④)】 後170(④) 【163(④)】
	九州向	39(④) 【16(④)】	30(④) 【12(④)】	33(④)	58(④)	55(④)	前53(④) 後49(④)	48(④)	前50(④) 後54(④)	71(④)	82(④)	74(④)	前54(④) 【26(④)】 後50(④) 【23(④)】

（ ）内の数字は、運用容量決定要因（①熱容量等、②同期安定性、③電圧安定性、④周波数維持）を示す。　【 】内の数字は、作業時の最小運用容量を示す。

注1）9月、11月、3月における「前半」：15日まで、「後半」：16日以降

3.特殊日の運用容量

特殊日として扱う日については、系統情報サービス「2023年度・2024年度連系線運用にかかわる平日・休日カレンダーについて」参照
単位：万kW

2026年度

連系線	潮流方向	断面	GW	盆	年末年始
東北東京間連系線	東京向	昼間帯	423(①)	–	–
中国四国間連系線*1	中国向	昼間帯	120(①) 【120(①)】	145(①)	120(①)
		夜間帯	120(①) 【120(①)】	145(①)	120(①)
	四国向	昼間帯	120(①) 【120(①)】	120(①)	120(①)
		夜間帯	120(①) 【120(①)】	120(①)	120(①)
中国九州間連系線*1	中国向	昼間帯	170(④)	221(④)	167(④)
		夜間帯	146(④)	177(④)	179(④)
	九州向	昼間帯	16(④)	53(④)	17(④)
		夜間帯	29(④)	59(④)	78(④)

2027年度

連系線	潮流方向	断面	GW	盆	年末年始
東北東京間連系線	東京向	昼間帯	423(①)	–	–
中国四国間連系線*1	中国向	昼間帯	120(①)	145(①)	120(①)
		夜間帯	120(①)	145(①)	120(①)
	四国向	昼間帯	120(①)	120(①)	120(①)
		夜間帯	120(①)	120(①)	120(①)
中国九州間連系線*1	中国向	昼間帯	170(④)	221(④)	167(④)
		夜間帯	146(④)	177(④)	179(④)
	九州向	昼間帯	16(④)	53(④)	17(④)
		夜間帯	29(④)	59(④)	78(④)

（ ）内の数字は、運用容量決定要因（①熱容量等、②同期安定性、③電圧安定性、④周波数維持）を示す。　【 】内の数字は、作業時の最小運用容量を示す。
*1　休日または特殊日明けの夜間帯のうち0:00～8:00は、休日または特殊日の夜間帯の運用容量とする。

4.2028～2035年度の長期運用容量

単位：万kW

連系線	潮流方向	2028年度	2029年度	2030年度	2031年度	2032年度	2033年度	2034年度	2035年度
北海道本州間連系設備[1]	北海道向	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)
	東北向	100(③)	100(③)	100(③)	100(③)	100(③)	100(③)	100(③)	100(③)
東北東京間連系線	東北向	630(①)	630(①)	630(①)	630(①)	630(①)	630(①)	630(①)	630(①)
	東京向	760(①)	760(①)	760(①)	820(①)	820(①)	820(①)	850(①)	850(①)
東京中部間連系設備[2]	東京向	270(①)	300(①)	300(①)	300(①)	300(①)	300(①)	300(①)	300(①)
	中部向	270(①)	300(①)	300(①)	300(①)	300(①)	300(①)	300(①)	300(①)
中部フェンス[3]	北陸・関西向	310(②)	310(②)	算出条件等検討中[4]					
	中部向	329(①)	329(①)						
北陸フェンス[3]	北陸向	309(①)	309(①)						
	中部・関西向	435(②)	435(②)						
関西フェンス[3]	関西向	310(②)	310(②)						
	中部・北陸向	329(①)	329(①)						
関西中国間連系線	関西向	485(③)	485(③)	485(③)	485(③)	485(③)	485(③)	485(③)	485(③)
	中国向	470(③)	470(③)	470(③)	470(③)	470(③)	470(③)	470(③)	470(③)
関西四国間連系設備	関西向	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)
	四国向	0(②)	0(②)	0(②)	0(②)	0(②)	0(②)	0(②)	0(②)
中国四国間連系線	中国向	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)
	四国向	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)
中国九州間連系線	中国向	278(①) 【146(④)】	278① 【146④】	278① 【146④】	278① 【146④】	278① 【146④】	278① 【146④】	278① 【146④】	278① 【146④】
	九州向	55(④) 【16(④)】	55(④) 【16(④)】	55(④) 【16(④)】	55(④) 【16(④)】	55(④) 【16(④)】	55(④) 【16(④)】	55(④) 【16(④)】	55(④) 【16(④)】

（ ）内の数字は、運用容量決定要因（①熱容量等、②同期安定性、③電圧安定性、④周波数維持）を示す。　【 】内の数字は、最大需要時以外で空容量が小さくなると予想される値を示す。

1）2027年度に北海道本州間連系設備30万kWの増強を予定。

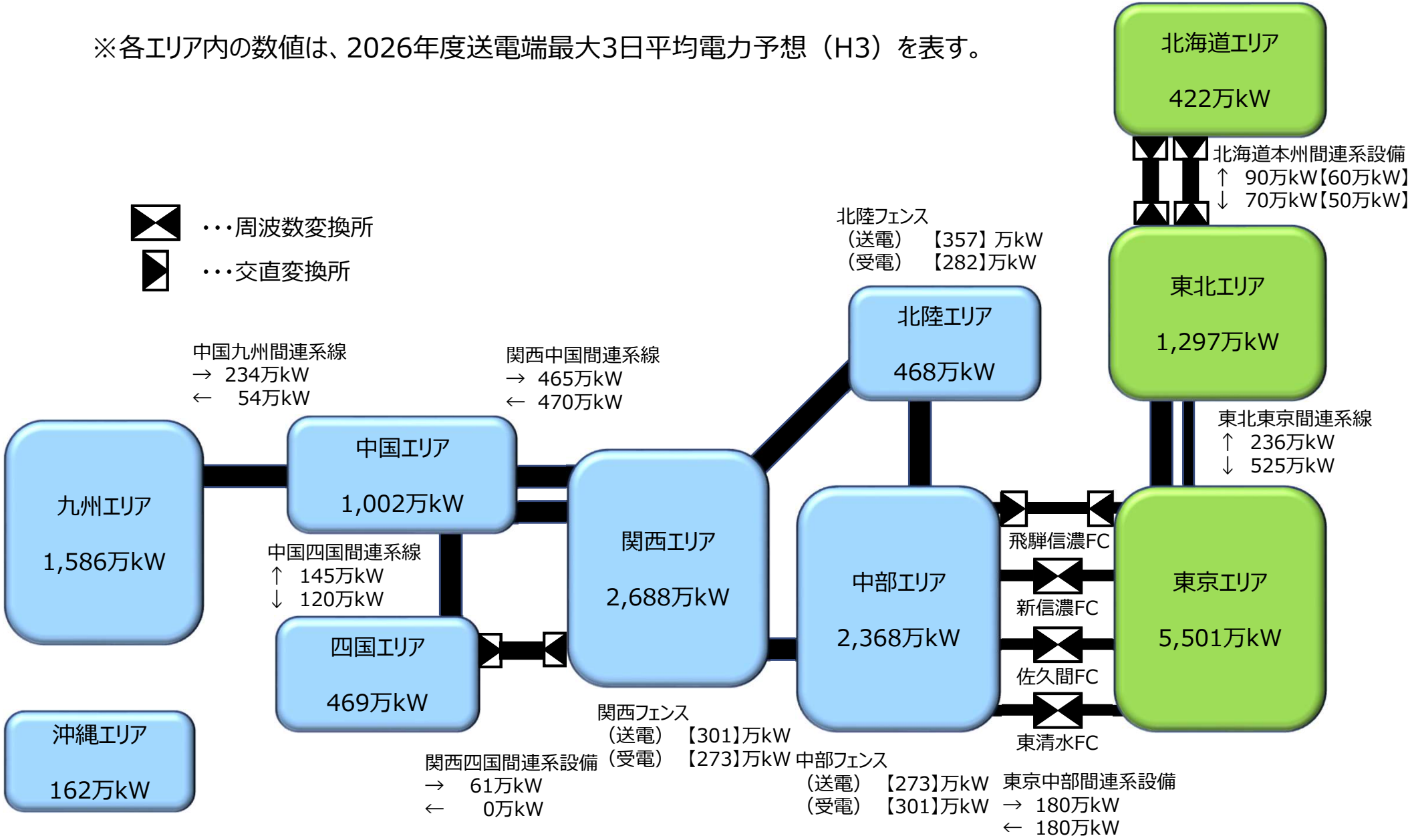
2）2028年度までに東京中部間連系設備90万kWの増強工事を順次完了予定。

3） 2026年度に中地域交流ループ運用開始の予定。中部関西間連系線（関ケ原北近江線）運開（2030年度予定）以降は、中部フェンス、関西フェンスは600万kW程度（中部関西間連系線に係る広域系統整備計画に基づく）へ拡大の見込み。北陸フェンスの拡大規模は未定。

4） 2030年度に中部関西第二連系線の増強を予定。

5.全国系統の運用容量（2026年度8月平日昼間帯）

※各エリア内の数値は、2026年度送電端最大3日平均電力予想（H3）を表す。



【 】内の数字は、作業時の最小運用容量を示す。